
水の星へ愛をこめて

スグル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水の星へ愛をこめて

【Nコード】

N3589F

【作者名】

スグル

【あらすじ】

乗り間違えたから始まった、世界を感動させた剣道部員達の物語。

秋田君…、ちょっと…、話がある…。

新人戦県大会出場のヒデキ高校剣道部一同は、今、会場へ向かっていた。

その移動中、顧問の笹錦やぶしんに呼び出された女子マネージャーあきたの秋田恋街こまちは耳にはめていたiPodのイヤホンを外して、笹錦の隣に座った。

イヤホンからは、彼女が聞いていた電気グループの『シャングリ』の音が漏れ、座席では顧問の笹錦は、今にでも、なにかを吐き出しそうな青い顔をしていた。

なので、秋田は座席にあるエチケット袋を取った。

「いや、そうじゃない…」

エチケット袋を持った彼女の手を止めて、笹錦は、この場に居る選手達全員を、キョロキョロと見渡す。

選手達は、わーぎゃー、と騒いでいる。

「どうしたんですか、そんな仮面ライダー旧1号みたいな青い顔をして…」

一部にしか解らない例えをして、秋田は、様子のおかしい笹錦をなだめる。選手達を見渡し終わると、笹錦は深く深呼吸を何回も何回もして、自らを落ち着かせる。そのタバコ臭い息は、秋田を不快にさせた。

すると、笹錦は静かに口を開く…。

「乗り間違えたんだ…」

その言葉に、秋田はエエーッ！？と驚く。

「どうするんですか！？大会は明日ですが、今日、宿泊の予約をしてた旅館に連絡しな…」

「そんなレベルの間違いじゃない！！」

電車を間違え、予定が狂ったことに焦っていた彼女を怒鳴る笹錦。秋田は、あっけらかんとなり、ゼーはー、ゼーはー、と笹錦は、また深呼吸を繰り返す。

大会は明日だし、旅館にはフォローが効くし、また乗り代えれば良いのに、何故、そこまで、笹錦は取り乱すかを疑問に思う秋田は、座席の窓に目をやった。

窓には、青い水の惑星が映っていた。

というわけだ、みんな…。俺たちは、スペースシャトルに乗っている…。

間違つて乗ったスペースシャトルの中で、座席に座る選手達全員に、事実を皆に告げた笹山は無重力に体を預けて、難しい顔で腕を組み、宙に浮く。相変わらず、窓には故郷の地球が青く輝く。

当然、選手達全員は、発情した猿か、夏場のカエルみたいに、一斉に騒ぎ始めた。

「おい！どうすんだよ！これ、間違えたとかのレベルじゃねえぞ！」

「寝てる途中に、なんか体が軽くなったと思ったよ!!」

「ていうか、気付くの遅いよ!!」

「おい、窓を見るろ!あの有名な白い二足歩行の残骸が浮いてるぞ!」

「どおりで、なんか、移動費が高いと思ったよ!」

一斉に放たれる選手達の反感的になる笹錦は、急に目をお開き、宙に浮きながら壁を叩く…。

「うるさいよ!とりあえず、どうするか考えろよ!!」

彼が大人げなく叫ぶと、皆、黙り込んで考えたが、すぐに決断は出た。

シャトルは大気圏を離れてしまったし、オートパイロットだったし、誰もシャトルを操縦出来なかったため、どうにも出来ない…。

皆、暗く静まり沈黙した…。

「地球、青いな…」

「ああ、青い…。まるで、仮面ライダー旧1号みたいだよ…」

シャトルは月に着陸し、全員が宇宙服を着て、月に足を着ける。重力の微弱な月の上、彼らは頭上に見える青い地球を見つめる。昨日まで居た地球が、あんなに綺麗な青なんだと…。

その青さに薄らと、地図や地球儀でお馴染みの緑色の島国、日本が浮ぶ。

すると、地球から離れ、帰るすべを失ったため、故郷が恋しくなり、一人の剣道部員が胸を詰まらせて、男らしく豪快に泣き始めた。

「ウオオオン！地球に帰りてえよ！！」

これが火蓋となり、同じく、宇宙空間という不安に胸を詰まらせる他の選手も泣き始めた。

「うわあああん！こんなにも地球が切なくなるなんて！」

「ああああ！！こんなことになるんなら、もっと、環境に優しくなれば良かった！！」

「うわあああん！また地球に帰れるなら、俺、ハイブリッドの車に乗るし、リサイクルするよ！」

「うわあああ、もっと、資源を大切にすれば良かった！」

「二酸化炭素と温暖化って、実際、あんまり関係ないのに、なんであんなに二酸化炭素を減らす努力するのかね」

「ああ、今の俺なら、どこであろうと、ためらいなく木を植える！！」

皆、わざとらしく泣きながら、遠くなった地球に思いを馳せた。混乱する皆を落着かせようと、マネージャーの秋田が必死にみんなに声をかけるが、皆の宇宙服のヘルメットは、滝のような涙で満たされていた。

こんな状況に、誰もが絶望し、我を失っていた…、その時…。

「面！面！面！」

なんと、無重力の月の上、宇宙服で竹刀を握り、面打ちの素振りをする顧問の笹錦の姿が…。

皆、その彼の気合いの籠もった声に振り返り、ひた向きに月の上で竹刀を振る彼の姿に泣くのをやめた。

宇宙服で、竹刀を何度も何度も振り、汗を流す笹錦。彼は、地球

から離脱してしまったことに、絶望などせず、ただひたすらに、純粹に竹刀を振る。

そんな顧問の姿を見て、一人の剣道部員が体を震わせる。

「そうだ…、確かに俺たちは、地球から離れた…。しかし、俺たちは、どこであろうが、剣道部なんだ!!」

部員達は、シャトルに置いてきた竹刀を持って、再び、月の上に立つ。両手で、竹刀を握り、彼らも笹錦と一緒に素振りを始めた。皆、泣き叫ぶのをやめ、ただひたすらに、笹錦と共に月面で、何度も何度も素振りを繰り返す。さっきまで、涙で満たされた宇宙服は、今度は、熱い汗で満たされる。

俺たちには、剣道がある! だから、どこであろうが、剣道をしないわけには行かない!!

その情熱を胸に、彼らは地球を背景に、何度も何度も素振りを繰り返す。

「どうした!? てめえら、声が小さいぞ!! 次は、胴打ちの練習だ!!」

笹錦の厳しくも優しい指導に怯むことなく、部員達は、はい! と叫ぶ。

無重力下での胴打ちは、かなり難しかった。だが、それでも構わずに、部員達は胴打ちを続ける。

マネージャーの秋田は、そんな熱き血潮を宇宙でたぎらせる彼らを、大声で応援した。

今度は、月の上なだけに、突きの練習を開始すると、アメリカからの救助隊が地球から、シャトルで現れた。

アメリカから来た宇宙飛行士達、救助隊は月面で剣道をしている彼らを笑う。

「オー、クレイジー！」

「オオー、フジヤマ、ブシドー！」

「オー、サムライ、スシー！ミソシルー！」

しかし、そんな救助隊を相手にせず、ただ彼ら、剣道部は突きの練習をし続ける。

A H A H Aと笑いながらも、救助活動を始めた宇宙飛行士達は、練習の最中の笹錦の肩に手を置き、練習やめさせようとした…、その時…。

メッコン！！

笹錦は、竹刀の柄で救助隊の一人を腹を殴った。

「オー、ナニシトルデ、オマン！？」

せっかく救助に来たのに、殴られたため、さすがに怒る宇宙飛行士達は、拳銃を笹錦に向けた。

すると…、笹錦は竹刀を彼らに突き付け叫んだ。

「バカ野郎！今、剣道してんだよ！邪魔すんな！！」

「ノー、ワタシタチ、アナタタチ、タスケニキタ！！ナノニ…」

「うるせえ！！バカチン！」

月面を竹刀で叩き、笹錦は拳銃を突き付けられながらも、彼を睨む。

「俺たちは、剣道部なんだよ！月の上であろうが、剣道部でしかねえんだよ！！竹刀があれば、どこであろうが、剣道をやるしかねえ

んだよ！俺たちは、剣道でしか自分を表現出来ない不器用な人間なんだよ！！」

笹錦のこの言葉に、宇宙飛行士達は拳銃を月面の上に落とした。叫び終えた笹錦は、再び竹刀を握り、突きの練習を再開した。

宇宙飛行士達は、ガタガタと身体中を震わせている。

「クレイジー…、クレイジー…、ジャパニーズ、イツツア、クレイジー…」

「バッド…、こんなクールなクレイジー見たことない！！！」

宇宙飛行士達は、身に着けていた武装をすべて、月面に捨て、大きくジャンプし、たまたま宙に浮いていた竹刀を握った。宇宙飛行士達は竹刀を握りながら、涙を流し、部員達と一緒に、竹刀で素振り始めた。

笹錦は、そんな宇宙飛行士を見つめ、静かに微笑む。

「そうだ！国境も、地球も、宇宙も関係ねえ！！ただ、竹刀と愛があれば、俺たちは生きていけるんだ！！」

こうして、誰彼問わず、皆、月面の上で、ただひたすらに夢中になって、剣道を続けた。

そして、数日後…。

彼ら、ヒデキ高校剣道部員達は、地球に無事に帰還。この些細な出来事は、アルマゲドン以来に、多くの人々に感動を与え、何百年後も世界に語り継がれた。

地球に帰還して、すぐのインタビューにて、ヒデキ高校剣道部顧

問の笹錦純平は、こう語った。

「地球は、仮面ライダー旧1号みたいでした…」

（後書き）

教師をテーマにした作品を以前から考えていたのと、前作の『剣道やろっぜ！』が、いろいろ問題だらけだったため、そのリベンジで、また剣道をテーマにした作品に……。最近、某有名ロボアニメシリーズの熱血系の異色作に感銘を受け、構成では、県大会の会場は月だったというオチで終わるはずだったのに、この展開に……。まあいいや……。登場人物の名前は、お米のブランド名から。歴代最短時間で書き終わった作品でした……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3589f/>

水の星へ愛をこめて

2010年11月12日16時25分発行